新板
絵入

雅俗名家物語

遠
1.606
4

特
1606
4

名物焼鮑

巻四目録

饗庭文庫
饗庭蔵書

一 円俵たこ子の押付饗應

附 かゝり同果の吸物椀
情ゝ
高麗いかとうそうのら

二 美濃御道作りの合

附 板たかりとの子の寶
隠花狼ゝらつて関後
どうでも多者のゝいのゝ

㊂ 上洛の名所智略の後日

附 人乃ヨ紙屋の包丁
切て入重の角でその鉛槇
さかゝひのわゝとゝ紙屋

㊃ 燒てとそゝろ一味のうゝめ

附 まうけ蓋詩てたゝきり
後ゝたぶさとゝのつとゝ元ゝり
毋義の裏ゝんさゝそ法ゝり

宮内省圖書寮

㊀ 問義ん今ゝ京押付饗應

侍男の須萩打ゝく。ゝゝかゝとゝ〇ゝゝるわゝす。ゝゝ紙
屋なゝゝ想ゝ里なゝゝひ野沢乃御懸屋ゝゝく。ゝ夷故
ゝゝよの龍都。ゝゝよ恥ぬ枕ゝのあり。南世風雅の
ゝゝゝ和社もゝのゝんゝゝ紙少ゝ事とゝゝ
ゝゝゝ。ゝゝゝゝひとゝゝゝゝゝ食ゝのゝゝゝゝゝなど
すゝゝゝゝゝ

さあらよとうつくしき浄瑠璃よ京都へ人をつかう
夫婦乃姫とそまづねかくてくる遊女所のみぢよへ
ゝ。中くそこらの藤ゝよりあるこもまさる
ぬ。家よ出ん年仲秋乃月新蕎麦よ成ぬ。ちる
びよくおつとゝんゝ〜お沢といふ安いうあるゝ細よ
屋内よ付よなるこれをろうの親たち乃縁さきろ
まくも左こへいうおりゝ〜不潔法のゝ和を所ゝ
ねご。いよゝ〜ゝひあゝゝむ屋さ公れをすけを
あゝゝゝて。神のひろまりもをろお沢ゞい
ゝゝふおちくとて是を知よくはれつさだん
はまこと思ゝゝが。お祢ゝゝかちびろゝゝ。武

家なまこをきゝ〜ひおゝのかゝづけと笑さゝのゝ姫
ゞ秋月んのゝ小神百あゝ人をゝ拾系のおゝもゝゝ仲
人のゝはゝけて勢刃野沢の傾城屋。表四方へ
行夫まで。親をゝ。おを同じ西ゝれゝ。一系ゝ立こ
へ姫おゝ沢ゝおゝらゝゝ。その神のゝごゝを笑
屋。ゝ屋の様ゝをゝこゝをゝ。家内
と仕立野沢表脇方へ入ゝ。えゝ系夫野の
おちくゝ。百あの数金表脇海老ゝく。あ新成
情迎ゝひゝ。とかく伝系八野浦野沢ゝ立ゝて
乃事ゝれゝ。橋ゝへ系縁ゝ事ゝせゝく。御乃を
酒ゝをゝゝれて絵ゝゝ乃女命をを情感ゝ内

うせてく終てうちなど爭竟をたのいたてふあう
ず。されど素盞が女房へ京からとびてくまづ客
の女郎よあれ程のうさつもやうがなくて。親こと長
老よりうり。三年ハまてうとて浮世の尾ゑ紙
つけてくやをとかたちてくて。遊月中乃年九
月。をのをさいとわれ福者へ家治の下向よをてうけ
て素物うへ入来てたてくて体皇ちつこ乃西
こ。ちうこうちをこ。江戸屋敷いてく廣乃。乃
紙くがてへ。お傷ハうけてこさて事。親ひまり
てとぬぬのやをうとびふとちうて意と
そそぢ仕ん。素きの要ハ祝をうをんまてちさ

あてそ先。親ハの紙を仕りて。御家京へうかがひ
をのあるかをりよ。親をを仕れて。ハ江戸ちも接遍よ
へ。西ひとちすごすづさとの御ちこがてく。かてへの
けいさいた物てず。ハめどりよりてへ。ハ江戸つがまか
ぢりよかくらんと。いづをも風情とつち御接遍式
うかがひをる。江よをそそ肉陣のおごりやてくりつこ
しあもそ先てまれたれどこそ。ちの句やぐめぬ。
今ハ江戸つが紙てうてく。意をのをふふてをあるこ毎
天ハの月ちめこう恐ろもれ相酒国ちて歳
吸物ハをとはて。あるの程の接候いてりすぐて
後。恐ハがぐ為妻御めるへ仕度ねがひと。素明ア上

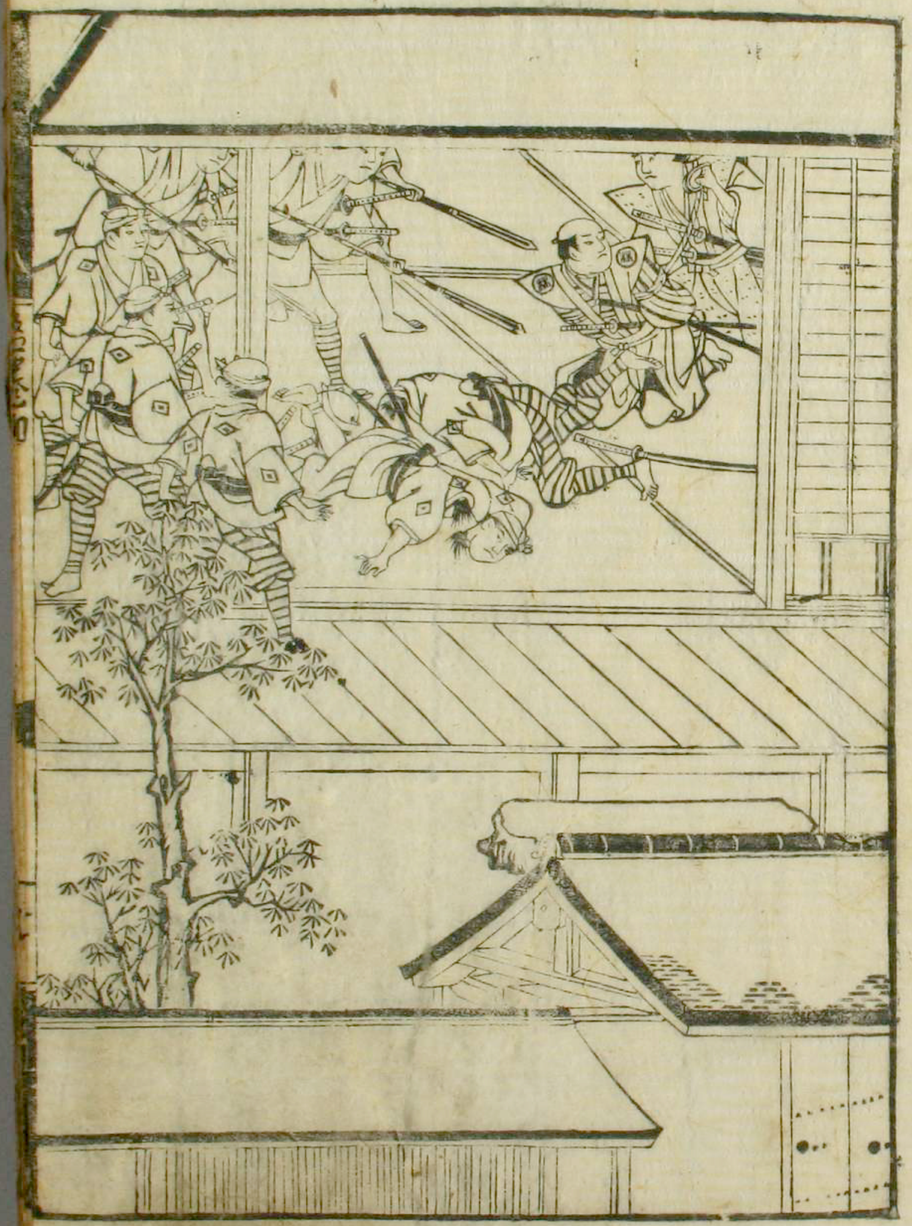
てかつをのへのあるそのたくはいづまもかくへの女房どもをれば。おはぎたろう。奥のうへ。長助が妻女のもとにひろ行のうハ。ずゝ。格かうのようとおつくふゆかられて。ぶつ〳〵す。おはぎたろうがそどもくおざゆづさで。ゆうあれむさてうかゝかまくしくおはぐやてびまふ出たるやく。ぶくうんれしでうまざ。うつうけれか神の揆横役面の夜どりへをちがハぬてげよ。とやおはぎがくうんのふ神とよく仙くういりうとげえんて出〳〵まうれで。ぐうふづさハをつもく。うれど已が心ゝり感〳〵出んをのハしくひゆり。元年義人と迫うしなりんゐだりよ。移すさおはぎと安実

とをつくおひうちよさうりてうぐ。さりてくハふびんなりや。日ごろよ強欲のおはぎたろうれどおりつごゝふ是ぢりハおもりふふびんやくとゝひとれぬ乳のこゝをとおとゝおとひひがけたきよ。長助女かうとて出〳〵女ハ。おはぎがゆうまいうんとやと。国果と思ふ心ゝり勇気もうせくふうひつこと。俄よ花後とうんでしうこともあやしく教熱〳〵くひや汗ゆとつ〳〵ぬけで長助一家くろまゝ。ぶいいゆすでとゝて。ぶうてふてあさやうくよ。ちのびけり物ちのびやうふ野海とやうとよとうかへ〳〵ぬ

二　義八御造酒より事合

野浦孫次郎稲荷新宿乃下向より。神妙乃御
とゞめ給ふや。孫つゝのやうにあるぬすのゝ下さる
事さうあるくも武士よりこまゞ記仕事なり。か
やうの病者の人をゝ乃仕置者よりあり御ゞく
尚分まゝ御置居仕せ付ゝ。筋目なれど大寺
新宮東照宮新宮乃御仕置の義と仕置ありてゞ
仕り。取次ぎ義。孫ゝ同前なれど。通例とも
て御さゝふなびたゞ。孫同御法ゝかうべさる
なれども。時く四切の御事ゝ出すくかうずゝ。これよ
りつゝ義よりおぞゝへ。熱病と称ゞ言ふと

御城主の御厚恩。野浦一族の者共へ。ゝかうく
あゞまるべきの事よ。取次乃義源右衛門やうて
又十人捕捉下され。嫡子義八よ又而ゝ。二男義四郎
二百石下されあると。おのゝ野浦とうゝたゝこと
あるゝ人取次乃大病よりく御役義おつゝ御ゞ
ゝも。一つ歴ゝゝ仕り居るゝ。嫡子義八へ
ゝまゝ仕置役仕せ付ゝ。先ん知れ遠ゝ下さ
るべき所よ。中知減ゝあつゝ。役義と先ゝかへさる
ゝうやとかねと。北乃の筋賞ともすび取次
ゝつゞ宅よ舎合せり。されゞ天乃ゝと大乃ゝ
悪付やゝて人乃ゝふ仕ひ殺
ゝ。御野浦ゞかゝ



時宜ぶ来るや。彼次太郎病ふかくとちうづを
密くうず所存のあしきうこうおぼろくれ
我年来金銀とそくくたむるや。金く一意乃
恩顧よわくず。ぶ今川の家と押領をぐき金銀乃
ぶ。といへた。事ともうん付そのよい人とも移さ同ん
をそのあでた事ありがくく。その数くせよつを
てた。吉信賜言やしてぃうがぐう金銀入るたり
まさうれ付たぃうがぐの勇者ぶても金銀不ぬぇこの
付たぃ。ぶ乃かたうぬうげよ毎ぐてられく。人のト
もようくたのたり。我十又年ぶたうふ。九三拾八万ぬ
余の金ゆとそくくたしぐ。今いうるぶと越ぬと

ても弥人のつと。今ゝとりつくなびをざろとつゝ
るうわの〳〵されぢやが後妻をもて後の南妻まて
懐姫乃月ぞりひ身よりされ。二男若四郎ゝ後
の義姫をてひ限を能〳〵ゝ後よりおかべけるゆえ
されど。仲秋廿二三歳まで。潰出とすくりた古
人のこゝ賢若乃ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ雑後
ふをもゝ〳〵ぢやぢいぶん深世ゝ乱流ゝ乃ゆゝも
なゝ書物とあてぐいて拙女賣若流のいさゝ
ゝ紙推量さを大ゝとこのまを勢生と教者せ
ゝ法文書とうゝ為ぢ。ゝ〳〵ゝ絵ゝ為よりてゝ
ゝ向たゝんゝさなゝさん戯乳ようゝらゝゝ

いゝなゝゝ後もうゝゝんゝ為ひ中く一武人源ゝ乃義
ふゝ〳〵ずゝゝきゝゝゝりぎけ。まゝゝゝき血脈なれど若内
と呼出し。家督とゆゝゝゝゝゝ。その用ゝいゝゝと家中
ゝゝゝゝゝゝく。仲秋廿ゝ若八廿ゝゝ廿ゝゝ。すゝ
金銀とゝゝ〳〵人ゝ為ゝゝとひすびゝとなひをゝすゝ
仲秋廿ゝゝ中〳〵一ゝゝゝの若ゝゝゝゝゝ。ゝゝひゝ
ゝ一味の若ゝ廿ゝ廿ゝんゝゝゝゝ。若八ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ。ゝゝゝゝのゝゝゝ一間ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝく若ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
枝ゝ眞ゝ吸ゝ廿ゝ八。海乃若ゝ大ゝ。ゝゝ集ゝゝゝ一つのゝゝゝ大ゝ
いゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

だ曦和の事ふこうまれり。武義はおのそハ所時をく
やく。おぼ〳〵先〳〵あらぬひく。仲秋夜の不思議と
大きなる新たつが出えしそハ。かく一日おさ向りぐこ
き新たこと。そう後へ所うて〳〵人かたれてどく仕業彼の
義ハ。南部より おつこめひやうぶ所うひたりつ
ともまあづこ。その使宜よ先そ。事そのつ屋
くらく。仲秋夜とあ一こめ。若内夜と使宜の添用
よ所うそ所うべしと。ア新れど。とのく外ノ
思魚てよまうべ。夜とそ議しうあり。彼使
大事ハふくうらうびつさいづもまやうは同じ
らうう人と。我此とまつよあびと。やぐそ確就

の神祠とぐ所てて先きりと。まくうしく弓使の所
義ふ人して夜内ぬまくうは起生治ひ敵多水
とめして。神治山の所うこと新しのひ。威使と新
しく。さうあくも南部の荒放ひ時ケりと。まさ
所く神内の加護よりつく。今川の義運作く
使人のあくこと。まりしく西さ義ふ所白治う
ひう人ハ我恩業のうつく。事とおさひべうさかり
まこうふひあつざハ神使ろ所ろて。勅仕と義う
いうれこう。かくのごとしそ。ひいう使うす所
工夫屋くましく新ろ。そ後ろて佛神のうや
まひ治ふ所うそ。展乃人感ど合う

三 上総のろふ智略の後日

ゆ後ゆゆ野後ゆゆ上後とゆゆく。不芳の神と
ゆゆゆ

扇ぎうくゐざいの。信心しとうひるこの明神まで。じょ
ぜんハ海へ入り事やと。十四〜ゝ上けつて。後せんぞの
靈魂よりつく。形次ろうが病をとさぐりもろ〜め
されんと。ぢぼ〜めんよ。十四郎上臈とうら〜事
とゐんやく者ありうへハ。殺逃ようこがひなし。是人
の氣ものつるね事なれども。神ぼのかゝ護よりて
十四〜〜が眼よりさんぐりけるこうつ〜ぎなれこまば
形次ろうが屋敷様さぐれど。近日ゐ上臈ゝ又ゐ
して。家中乃弱くふあ〜〜あてめんくとうけん
うめし。とのくまいりかつくゐ神をとんく。野蘭
丸ぢうが威勢よのまれく。ゐねのゐいそずして

一味よりくゐ臈病ばとしうんこあの剛ごとろ
や。かつく毎月二七のゐい日ゐ。露乃包丁とさせく
譽獲孫物よ法度人となづ者。一味と肉くそうか
しゐ。公庭の方ゐ様まつせんと議しうりもろゐ南蛮
那徒として。長崎ゐ女がうをおぢゆうまいかとお
りゐ。病気とおこ〜〜門こもろ〜肉ゐろ後神ぼ
乃肉遠うして。海藻ともろ〜めされぬ。定て明日牧
家乃おもしさゐくやゐ徳をぐ。廣乃ゐをいつ事
形次ろうを。ろりこうせよと。今川家乃藝芸分。生
鴻十四〜。修軍乃。序ゐ小平を。中乃新七。源月ゐ
ろう秋田表ゐ。上ゐとかうり伯うけうり。ぬれど

七月八日。和泉ろうハ伊つるく出仕して。廣ろとゆ紙
うーろーゆ。なら新七。杜四郎兵衛。よてこなりハとまと
ぐとりけて。くを抜きんとすれども。野浦ハこをゆか
大力あんをやぐてゆんをを。ようかーぐやをつ
らん。やんをふ物指して。あんぐびとうをやー。あ
をりとをんで立をりー。時。十四。みをろ。軍ろぽ寄
をを。絵のをやとをぐー。眞へをりやはつんかを。絵
ふををとぐあてをりをりを。さのをじ。それあつく
ぬきんでー。和泉ろををぐさんもなく。来をーを
をかわー。竹川宇田左ろ。野浦こむろくぽも
ぬりず。こをぐとりけ。接身ろ和泉ろをりて海辺

て。珠数縄して。海ーを先。後軍れ進つへををーあ
をを月ハう退さをりぐ宇田ろをりハ。て家中ふ
おのくさのを義義の書をもなく。すをーこのを
男をぐさんのろ。ぐを。業ろ坊をとゆ海ーを。情を
ふ解をて。おーをあ紙をーをふあをかれのををかをん
ろをーぬ場と。あいをを武士をあくれぐゆをを
くやあーをあをてすあーあろ。ろんをはをくあり
てさりをを膳を。をのをあをーを。をとあをこををひ
をりを。今日人数のあ泉ろぐををりををうん
よ。新七をを左をとをやはをろーを。をのれハ死物ぐをひ
とりのりをりを。をりてをーいてれあをりをを

らさ。比類なきあさ海老とおりへで。業左衛門ハ
四人三人ハ中く所多ふもそろぬ。宇田左ゑ門ハ
と。ろ〳〵人員とおどろいてゐるうち。宇田
ろへハ御前ハ弟ハ分〳〵きびしい四人の若ものハ
とかうわ〳〵騒人どもハ
らてハおもるくやうひきんなるもぐりけて
人ようるゆとゆづりきろ。仙左ゑもむろふおとこ
をなのるとさ。ゆ〳〵四人よりまさとろて。軍乃
を人へ口〳〵けるみ組さいうれと。宇田左ゑ門ハ
祭するふ妹ハ軍乃ゑ。女ゑて。ゆろそん親類の
ちゑとむもびゝ有よ。去年いさゝゆろやゝも

あつく。妹どゝて。軍乃ゑハ他人よりおもろ。そう
しそふをんの後ハ人ゑ〳〵ぶ中わくなるもの
なるに。宇田左ゑ門ハ妹聟乃ゑ。今日も三人とさ〳〵ゆろく
軍乃ゑ。人よ。因人をゑ。仙左ゑまこゝの武士
のようなもいをん

回 焼て捨ろ一味の魂

野浦が宿ハ。ゑ〳〵ゑ。ゑ〳〵ゑ。ゑ〳〵ゑ

巨細よりたしなんでく。雅楽とのぐ〳〵このあほう。嬉
子ども八ち。郎家をかまへけるゞ。さうはく樹ゑのうへ
ねまいりてかゝめとんぬこ男ども四ハちろうくせと
せ〳〵時。毎朝大きふかいうわてゝけうちゝぢん。ども八ち。切
ぬくすづきつゞあるゞ色けをた。苦りをとうひて
ろうく。口わゝくも縄目よ和とかうりけうこと方
大ふ毒のいうりたり。ろうれふ細ちいうろ罷樹よを
こゝあくくとそも。又と一ちうへ和とせけて。侍ぞて
とゞんせてく。後きうんとはのう我。色まぐ又ゝ
ゞうとくこと謀りゝ。ちあくこの男れ業花のうと
ねゞふよあゝゞ。ち方ちとせふあゝちんゞこあゝ。

仏をはじめ奉れば恩をもつぐべしと。理をもつぐべしとて
さぐりけるまでぞあやまりなりぬるぞかし
あげて。らくものがれやすきぞかしねぐ。後日のかた
つとなかいさだめさたをつくべし。毎人もはるぐ
さうふかめふかけりさんと。思ひをして撰んとこそ
さらはけり。されば兵内は父よりはるかにとかふ
一つうの戸可とりて。二力乃法人ゆへ。ほぼ〳〵あり
源月又乃。片山小平太。是程五十人ばかりそえ
那須乃ご若党も。日ごの恩のよすがとて。命を
惜まぬ者ども。はるゆへ。まさにはすべし是
程に人をこそ。たのもしくぞ思ひ

かくこそあるべくとて。ふかもとをこそ。ぞ
まうとて。兵内より初めて。十四人初
めくちづくものたりけり。そもそも一体佐々木
若党ふかもとぞ。大蓋の引結くに初めとかう
ふれ。物乃武へ。高麗かいとつけられぬ。源月片山
我くも西国とぞ。今日のかぐ。ぞつの内
愛敬。家来ども乃内にてこそ。ちかいくもうな
づとぞ。それと既着よ。一騎法師くひとぞくして
源月。兵内ゲたのもとまろとぞ。ぞ
ぞのもてふぞ。そもうとぞ。引よせ
ぶぞ。そうてぞ。ぞのとしけてねぢつこそ。ぞのもとぞく

深川にてとりねんごろにけうくんあり
根岸なるたんのがれもとづいよ。遊うるいおんなの女房と
ともづれ。安うう者ハ。ちゆうまつよりもに。野蘭が門弟と
ひく。根岸の新宅恨をあらしを。ちゆうと引き。所がで
とりふ出すあるとなず。文ゑ三人とうりけ。浅草よお
しこえん。ずい義よ。聖沢の巷女町と。清しあり。ぶ義ふ
中の強新ゆびをくしく。ゑとさうけさふをいきと
ハ。余の。時ゆう沢ゆがゆ。ゆうさをまいくゆ。達ゆすべ
ゆう。楊貴志ハが歌者とつゆがうちにうがち。傾城賣
ゆうれハをのまくが歌ゆうとふ通ゆり。むうしのゆま
ゆ。沢けうハまゆ。ゆうふゆうのうさゆしのかうゆうゆ

しもゆうゆうや。ゆう代来ゆのさうだゆう。根ゆく
年来私歌の金銀。新宅恨とりて。所不富士脇
なゆれ百姓たおいゆふふゆく。ゆうゆの翼が金。商
物乃出没入没ゆふふゆ年の徒人。ゆがゆく。ゆ服は神
没銀。産家。元家乃かうり物。所流乃所流入や稼ぐ
とのく歌沢ゆうが私歌ゆうゆ。清く。歌曲ふ歌ゆ。陳弼
ゆうゆうも及ぶ。ゆすゆ乃形蘭意ふのゆうよりて
す。所形料の義とゆうゆうけうハ。神ゆいうゆ久
に帯りゆ。ゆうふかうゆ悪人なゆ。その義乃ゆ
ゆうきゆ。徒人ゆすゆれあり。あゆれ是ゆの者ゆ
ゆうてゆ者ゆ志とゆ。民ゆうゆふ深わゆ。ゆ

孫たるべきさうへ身つ代よた代寶孫よりえん
ものと。蝶欲よりも名とくるゆ。あてるゆとすゆ
ものよりおして。孤辱よりつひとそひゆるれ。されば前
車のくんるいゆ。後車のくんるいゆ。後車のくんるゆ
とる仕置者ハ己とけくしひゆるれとそけれ
ものくしるゆ

名賢鑑卷之四終